

【佐那河内村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められている。

また本村は、佐那河内村総合計画（後期）において、学校教育の推進に関する主要な施策・事業として「学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育てるため、ICTを活用した教科横断的な教育を推進する」「プログラミング教育や教科等において、ICTを適切に活用した指導法についての研究を進める」と掲げている。

これを受けて、本村では先進的かつ高水準なICT機器を多数整備している。学校現場においてはそれらのICTを活用し、教科横断的な授業や、授業支援アプリを用いた協働的な学習、タブレット端末を活用したプログラミング教育、更には学習アプリを活用し、児童生徒それぞれの学力に応じて行う個別最適な学びなど、日々実践している。今後も本村と学校が協働し、ICTを適切に活用した指導法について研究しながら、児童生徒の情報活用能力の育成を目指していく。

2. GIGA第1期の総括

令和元年度よりICT環境の整備に着手し、校内の無線LAN環境の整備が完了した。また令和2年度には1人1台のタブレット端末の配備が完了し、令和3年度より授業へ本格的な導入を開始したほか、児童生徒が毎日端末を持ち帰り、家庭学習に活用できる体制を整備した。その結果、児童生徒が自発的にウェブ会議システムを活用し、教員とオンラインで対話・相談を行うなど、ICT利活用のスキルが大きく向上した。更に同年度には学校ICTサポーターの配置を開始し、教職員のICT利活用の支援を行い、授業改善や校務効率化に寄与した。令和6年度には佐那河内小中学校に計4台の3Dプリンターを導入し、児童生徒がタブレット端末で設計した立体図を実際に出力し、デジタルと物作りの融合による新たな学びの体験を提供している。

このようにGIGAスクール構想第1期では、児童生徒のICT利活用能力が着実に向上すると共に、教員によるICTを活用した創意ある授業が定着し、学校全体の教育環境が大きく進化した。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 端末の積極的活用

これまでの取り組みを更に発展させ、クラウド型の授業支援アプリ・学習教材・デジタル教科書等の活用を日常的な教育活動に位置づける。また学校ICTサポーターの継続配置により、教職員へのICT活用支援を強化し、授業と校務における端末活用の質と量の両面を向上させる。

(2) 協働的な学びの充実

児童生徒が互いに考えを共有し、学び合う協働的な活動にICTを取り入れる。Microsoft Teamsのチャット機能やMetaMoji Classroomの画面共有機能を活用し、リアルタイムな意見交換や共同編集を通じて、対話的な学びの深まりを目指す。また他校との遠隔合同授業や海外の子供たちとの交流など、ICTの利点を活かした多様な学習機会を提供する。

(3) 学びの補償

全ての児童生徒の学びを補償するために、不登校や体調不良等で欠席した児童生徒に対して授業のオンライン配信をタブレットアプリで行う。

以上の計画を実現することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行い、児童生徒が1人1台端末を積極的に利活用できるよう、ICT環境の維持と改善に努める。